

みなさんおげんきですか。さむいなかをがっこうにかようのはたいへんですか。きょうがいがっこうは、まだすることができないので、せめてにちようびのふくいんをみんなにとどけたいので、じかんをつくってよんでね。

イエスは、あんそくびにカファルナウムのかいどうにはいっておしえはじめられた。ひとびとはそのおしえにひじょうにおどろいた。りつぼうがくしゃのようにではなく、けんいあるものとしておしえになったからである。そのとき、このかいどうにけがれたれいにとりつかれたおとこがいてさげんだ。「ナザレのイエス、かまわないでくれ。われわれをほろぼしにきたのか。しょうたいはわかっている。かみのせいじゃだ。」イエスが「だまれ。このひとからでていけ。」とおしかりになると、けがれたれいはそのひとにけいれんをおこさせ、おおごえをあげてでていった。

ひとびとはおどろいて、ろんじあった。「これはいったいどういうことなのだ、けんいあるあたらしいおしえだ。このひとがけがれたれいにめいじると、そのいうことをきく。」イエスのひょうばんは、たちまちカリヤちほうのすみずみにまでひろまった。

きょうのふくいんはすこしみじかいですが、むずかしいのでリーダーはかんがえて、しらべて、いのって、それからじぶんなりのせつめいをしたいとおもいます。

まず「イエスさまは“けんいがある”」というみですが、イエスさまはひとをしたがわせるちからがあるということです。

ひとびとはイエスさまのすがたをみるだけでひきつけるちからをもっていることですね。

イエスさまは、まちやむらについたとたんに、たくさんのひとがイエスさまのはなしをきくためにあつまってきました。イエスさまのはなしをきいてみんなのこころは、よろこびでいっぱいになりました。イエスさまのいっていることでほんとうにしあわせになれるとかくしんしていました。

つぎに、あんそくび”、そのとうじはどようびでしたが、いまは、にちようびにかわりました、それはにちようびがイエスさまのふっかつなざったひだからです。

イエスさまがかいどう(いのりのばしょ)ではじめてひとびとのまえでおはなしをしました。、そして「ひとびとはそのおしえにひじょうにおどろいていた」。ほかのがくしゃとちがって、ちちなるかみさまがどういのかたか、いきいきとつたえられたので、きいているひとたちをひきつけられたのでしょう。イエスさまはことばだけではなく、おこないによっても、ひとをひきつけられたとおもいます。

イエスさまのやさしさをとおしてかみさまがいるとかんじ、まわりのひととたすけあう、あいしあうことのたいせつさもみんながわかってきました。

そのひ、みんながいのっていたとき、ひとりのおとこのひとがさげびました。そのひとはなにか、わるいちからがそのひとのなかにはたらいっているようにかんじました。まわりのひとはだれもそのひとをおさえることができませんでした。そのひとは、イエスさまにむかってさげびました。「わたしにかまうな、イエス！わたしたちをやっつけにきたのか」

イエスさまは、そのおとこにとりついているあくまのれいにむかってさげびました:「だまれ、このひとからでていけ」

すると、わるいれいはそのひとをふるわせてからおおごえをあげてでていってしまいました。

イエスさまにはにんげんをくるしめているわるいれいをおいだすちからがあります。イエスさまはかみさまのこですから。わたしたちはイエスさまといつもいるからおそれることはない。イエスさまのちからがついているのでわるいことからまもってくださっています。

イエスさまにまいにち「ありがとう」といいたしもうね。まもってくださいています。